

立川

9

立川と語ろう 立川に生きよう
September 2007
écoutez bien Vol.26 No.274



フロム中武 7階はマニア必見！
 〈おたくの聖地〉立川にあり。

写真：五来孝平

こ こ が タ チ カ ワ ！
 こ こ も 立 川 ！ ②

ボックス 立川ショールーム

(曙町)



フルチョイスでオーダーする



本物の靴屋がつくる本革の靴



光の陰影や首の微妙な角度で表情が変わる

個性豊かなお店がたくさん入っているフロム中武。おもしろいキャッチコピーも話題になって、あらゆる客層をつかんで離さない。中でも特に異彩を放っているのは、7階にあるボックス 立川ショールームだ。エスカレーターでフロアにつくと、目に飛び込んでくるのは草花で飾ったショーウィンドウ。中にはいろいろな衣装をまとった人形が並んでいる。入り口から中へ入る一歩に、抵抗を感じるのは私だけだろうか。「いえ、そんなことはありません。引いてしまう方が多いですよ」と笑顔で応えてくれるのは店長の星野茂久さん。「〈おたくの聖地〉と呼んでいただけることは、本当に光栄なことです」とおっしゃる。

店内にはフィギュアやロボット類はもちろん、そのマテリアル、工具にいたるまで、マニアには垂涎、そうでなくても興味を惹かれるものがたくさん。しかし、ボックスが〈おたくの聖地〉と言われる所以、それはやはり〈天使のすみか〉と呼ばれるドルフィーサロン！ボックスの人形はドルフィーと呼ばれ、中でもスーパードルフィーの精巧さは、まさしく小さな天使と一緒にいるような気持ちにさせてくれる。フルチョイスシステムで顔の輪郭、目の色、体のかたちなどを選び、理想のドルフィーを注文できる。購入することを「お迎え」といい、修理してもらうことは「里帰り」。「この呼び名もみんなお客様からのご希望です」とは星野さん。人形が人格をもって人と接する場所。一緒にいたいと思う人がいても不思議はない。

▼ お迎えセレモニー



「総論賛成」から始められるって素晴らしい



於：国立市 ジャパン・カインドネス協会事務所 写真：五来孝平

「ゆび募金」自動販売機
 ジャパン・カインドネス協会常務理事
亀岡 猛さん

■ 亀岡 猛(かめおか たけし)／1948年柴崎町生まれ柴崎町育ち。日大芸術学部を中退し芸能プロダクションに入り独立。その後、自動販売機管理会社で関東一円の営業にあたる。自動販売機を通じた社会貢献のため平成8年「ゆび募金」活動を始め、NPO法人ジャパン・カインドネス協会(永田近理事長)を設立。現在常務理事・事務局長。昭島市在住。

芳賀 こちらのビルの前に「ゆび募金」の自動販売機があったので、すぐに事務所がここだと分かりました。飲み物を買うとそこから社会福祉団体などに寄付される自販機の普及を進めていらっしゃることはうかがっていましたが、実物を見るのは恥ずかしながら初めてなんです。

亀岡 多摩地域ではまだまだ少ないんです。企業内で福利厚生用に設置していただいているところはいくつかありますが、道路に面した外の自販機はこの辺りでは初めてです。最近事務所をこの場所に移し、大家さんが賛同して置いてくださいました。

芳賀 誰でもできる寄付というと、郵便局のボランティア貯金とか携帯電話での募金がありますが、ジャパン・カインド

ネス(JK)協会はどのような経緯でできたんですか？

亀岡 もともとのアイデアは、もう亡くなられたある広告代理店経営者の方なんです。新宿を歩いていて、これだけの人が10円ずつ集めたらどのくらいお金が集まるかなと思ったそうです(笑)。そこから飲み物1個につき飲料メーカーから1円、ロケオーナー(自販機設置者)から1円、合計2円を頂いて寄付にあてる仕組みを考えられたのですが、実際にできるかどうか、人を介して相談されました。やってみましょうと、とりあえずお願いに行ったら、飲料メーカーでは日本コカコーラさんがまず興味を示し、ロケオーナーでは東邦薬品さんが社内に置いてくださった。同社では東邦基金とい

う基金を作り、集まった募金に会社からお金を足して長野パラリンピック(1998年3月)に100万円寄付しました。これが「ゆび募金」による寄付第1号です。協力をお願いすると併行して普及組織としてJK協会を作りNPO法人化しました。当時東邦薬品専務で社会貢献担当だった松谷高顕さん(現会長)にはJK協会の会長をしていただいています。今年で11年目に入りまして、昨年未までで20余の団体に累計4200万円余を寄付できました。

芳賀 「ゆび募金」というネーミングがいいですね。僕たちが買うのはたかが1個の飲み物ですけど、ガチャとボタンを押して何か世の中の役に立てるのかなという気がします。

亀岡 一般的には募金型自動販売機と言うんですが、何か分かりにくい。自販機で買う時はたいてい手の指でボタンを押しますから「ゆび募金」(笑)。スローガンとしては「この潤いが小さな社会貢献へ」です。企業の社会貢献活動を「ゆび募金」でお手伝いする、そしてこの自販機を置くことで、飲み物を購入の方にボランティア活動をしたという実感を持っていただく——この二つがコンセプトになっています。

芳賀 日本は世界に冠たる自販機大国ですが、「ゆび募金」自販機はどのくらいあるんですか？

亀岡 日本全国にある自動販売機は約240万台と言われますが、JK協会仕様の自販機は現在約1000台。まだ大海の一滴というところですね。1年前くらいから飲料メーカーさんで独自に募金型自販機を置くところが出てきたり、新聞で紹介されたりして関心は持たれるようになってきました。私どもも11年目ということで普及活動に力を入れていきま

す。といってもマンパワーは圧倒的に少ないですし、趣旨を理解し賛同してくださる方の輪を着実に広げていくことが大切だと思っています。

芳賀 今年6月には、新たに設置する自販機はフロンを使わない「ノンフロン化宣言」をされました。

亀岡 はい。従来型に比べて1~2割高くなりますが、地球温暖化への影響も非常に少ないんです。電力消費の少ないヒートポンプと併せた「ヒートポンプ・アンド・ノンフロン」自販機も広がっていきます。ただ、よく社会貢献としての地球環境問題への取り組みなどと言われますけど、ノンフロン化は社会貢献というより、その基礎だと考えています。自販機に対してはエネルギー浪費といった批判もあります。それに添えていくのは当然で、その基礎の上に社会貢献がある。今は募金型自販機の割合はごく少ないですが、これがあ程度増えて来ると、寄付のクオリティが問われるようになると思うんです。

芳賀 寄付のクオリティ……ですか。

亀岡 制度上では寄付金を寄付先の団体にお渡しすれば寄付は完了します。本当はそのお金が実際にどのようなことに、どう使われたかが大切なんです。私どもは寄付先団体を決める段階から、寄付金は活動事業だけに使っただけ、どのように使われたのか決算を含めた具体的な事業報告を出していただくようお願いしています。医学の分野で言われるインフォームドコンセントですね。「ゆび募金」の自販機には募金のお金がどの団体に寄付されるか明記してありますし、購入者の方にも分かるように年に3回、これだけの寄付金でこういう事業ができましたというステッカーを自販機に貼っていただいています。もう一つは地域重視。協力してくださる

ロケオーナーさんにはご自分の地域で活動する団体に役立ちたいという思いが強いです。ですから、日本全体を対象とした団体にも役立てていただく一方で、それに連なる地域の団体も寄付対象としていく。募金が地域で生かされる実感が生まれます。実はこのところ九州で地域への社会貢献として「ゆび募金」が盛り上がっているんです。多摩地域でも、そういう形にできたらいいなと考えています。

芳賀 ひとりの人間の力なんて大したことはないかもしれないですけど、世の中のために良いことができるという実感が持てるって、大事なことですね。

亀岡 私が最初にこのアイデアを聞いて、やろう!と思ったのは、無条件に「これはいいことだ」と共感できたからなんです。自販機業界というのは非常に競争が激しく、はっきり言えばまず金銭的な条件交渉から始まり、ほとんどそれで決まる世界です。私はそういう業界でセールスをしてきた人間です。柄にもないとも言われましたが、誰もがいいことだと認め「総論賛成」から始められるって、なんて素晴らしいことだろうと思いました。JK協会は「ゆび募金」の普及だけを目的とした非営利団体です。多くの方たちの善意と協力でここまでやってこられた恩返しのためにも、この方向は貫きたい。生まれ育った立川にも「ゆび募金」に共感し、協力していただける人の輪を広げたいですね。



波多野米店	富士見町2-32-34 522-2884
立川市社会福祉協議会 市民活動センターたちかわ	富士見町2-36-47-2F 529-8323
桜井電材株式会社	富士見町3-2-13 523-5281
立川歴史民俗資料館	富士見町3-12-34 525-0860
室内装飾専門店 株式会社アイアイ	富士見町4-9-8 522-5972
多摩信用金庫 富士見町支店	富士見町4-9-22 528-1741
酒 ESPOA おぎの	富士見町4-17-7 522-4500
株式会社 立川印刷所	富士見町5-6-15 524-3268
SHOP99 立川富士見町店	富士見町6-15-3 540-1799
手打ちもとおか	富士見町7-16-15 528-2345
JA経済センター 立川店	砂川町2-44-3 536-1824
JA東京みどり 立川支店	砂川町2-44-3 536-1821
陶工房 己流庵	砂川町3-41-6 537-6102
多摩信用金庫 砂川支店	砂川町4-2-3 535-4411
山梨中央銀行 立川支店	柏町1-16-1 536-0871
超こってりらーめん パワー軒	柏町2-39-46 535-1665
ベーカリー リオンドール	柏町3-3-5 535-4882
江戸蕎麦 由庵	柏町3-14-2 523-9636
ピーコック 玉川上水店	柏町4-1-2 538-3861
菅家医院	柏町4-2-15 536-4602

えくてびあんの輪
 立川と語ろう 立川に生きよう
 えくてびあんは
 リストのお店にいつもあります

今月は 富士見町・砂川町・柏町・泉町・緑町・環町のお店です。

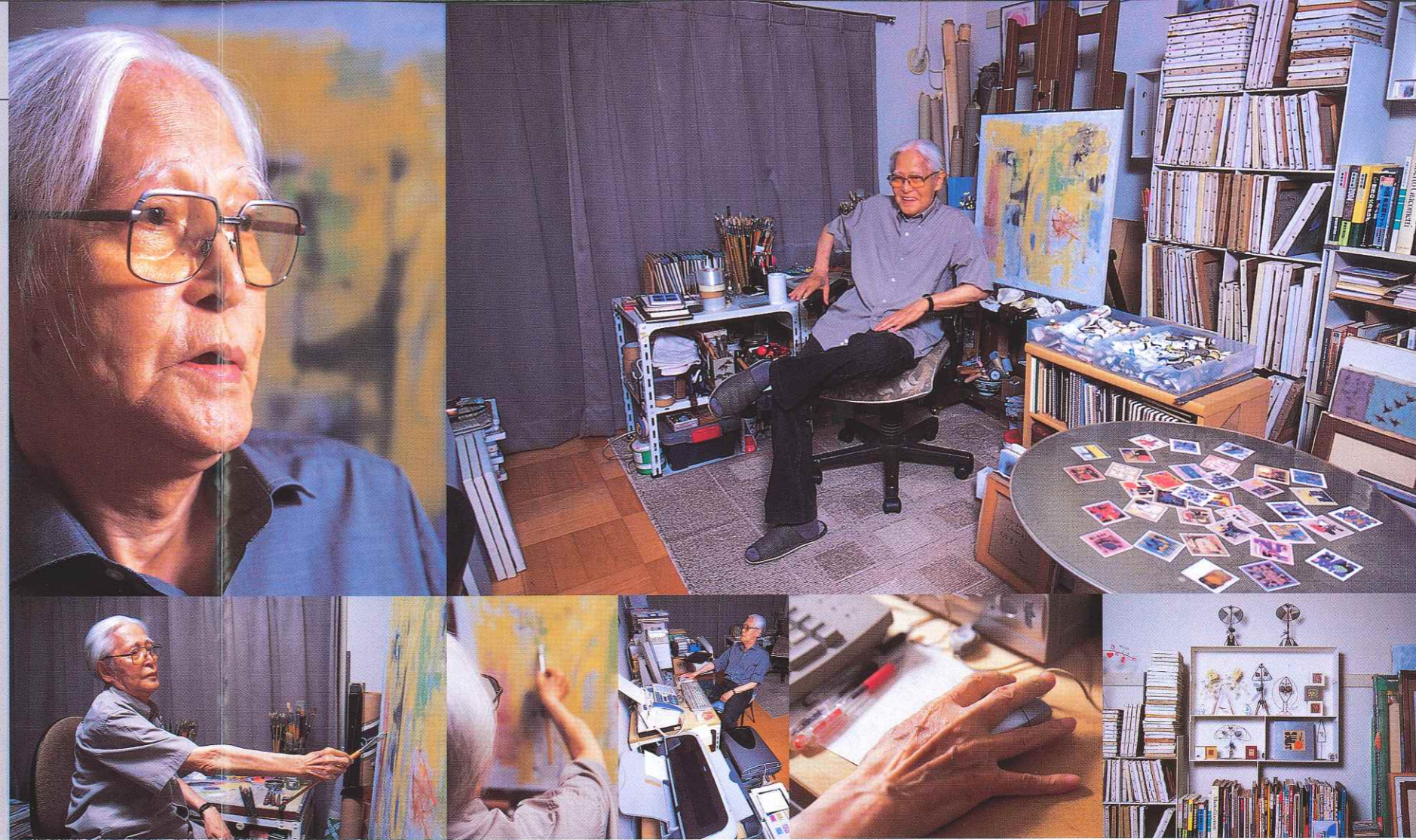
柏町	うなぎ専門店 うなぎちゃん	柏町4-61-13 536-6240
泉町	ハウジングワールド立川	泉町935-1 527-1321
緑町	東京消防庁 立川消防署	泉町1156-1 526-0119
環町	陸上自衛隊 立川駐屯地	緑町5番地 524-9321
環町	独立行政法人 国立国語研究所	緑町10番地-2 540-4300
環町	うなぎ しら澤	環町1-9-21 524-5061
環町	有限会社 クスミ不動産	環町1-16-2 522-4739
環町	不動産 大晋商事	環町1-23-9 525-3110
環町	ヤマハエブリプラス立川店	環町1-27-10 523-1431
環町	蕎麦懐石 無庵	環町1-28-5 524-0512
環町	TABACCONIST ゼフィルス	環町1-28-9 524-0514
環町	ブティック ASHUTE VENI-VENI	環町1-28-10 521-1481
環町	ピストロ シェ・タスケ	環町1-28-14 527-5959
環町	あら井鮎総本店	環町1-30-13 522-2957
環町	Cut Studio SOFIA	環町1-30-21 528-3241
環町	三田花店 ルミネ立川店	環町2-1-1-1F 527-5587
環町	KIRIN COFFEE ルミネ店	環町2-1-1-1F 527-2322
環町	オリオン書房 ルミネ立川店	環町2-1-1-8F 527-2311
環町	東京赤十字血液センター	環町2-1-1-9F 527-1140
環町	和生菓子製造直売 日の出屋 本店	環町2-2-18 522-3308

もっと自由に、 もっと洒脱に

85歳 大谷克己さんの画業

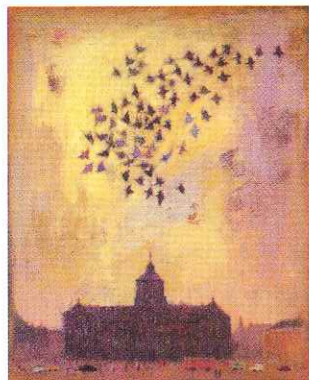
今年3月、一冊の画集が出版された。
『84歳が描いたパソコン遊画集』（文藝春秋）。
一番町に住む画家、
大谷克己さんがパソコンを使って描いた、
素朴でどこかおかしみがあり時に幻想的な作品。
油彩も常に新しい表現を試みるように自在。
現在 85歳の画家は、ますます自由かつ洒脱なのである。

写真：五来孝平



絵筆をマウスに持ち替えてパソコンに向かう

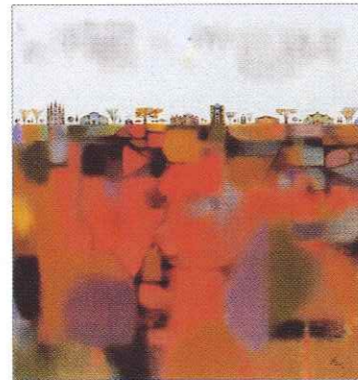
遊び心いっぱいのオブジェ



「広場に舞う鳥の群」1995年



「氷柱魚」1952年 新制作展出品



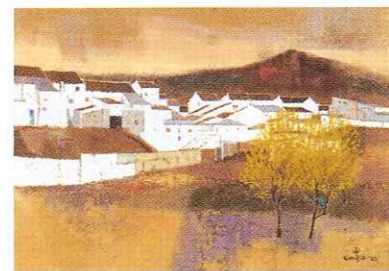
「ファンシーランド/Red-20」
2000年



「白樺林(夏)」1991年



「三本杉」1980年



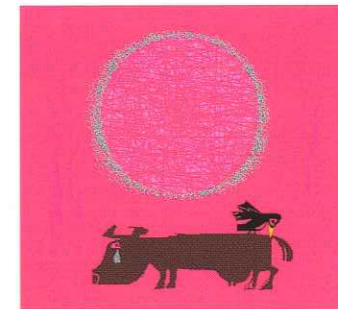
「ロンダの秋」1987年

本格的に油彩を始めたのは、戦後2年間の捕虜生活を経て帰国してから。独学だったが、猪熊弦一郎や脇田和、小磯良平、佐藤敬らのいた新制作協会展に出品し1949年に初入選。54年に郷里の栃木県から上京。しかし生活できず、グラフィックデザインに転じて一度は画家をあきらめた。

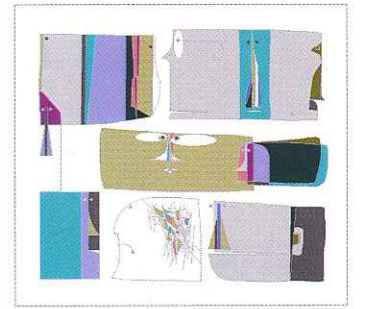
再び絵を描き始めたのは還暦を過ぎてから。「クライアントの意向でなく自分の好きなものを描きたい」。樹木ばかりを描いた作品で1981年初個展。25年の空白期間を経ての再デビューだった。孤影の濃い樹木はやがて自然や都市の風景になり、人や鳥、魚、動物たちが集まる。年齢とともに色彩のリズムは軽やかに、どこか剽けた味のある線やかたちは、むしろ若々しさを増しているように感じられる。

パソコン「遊画」は、そうした遊びごころの実験室。77歳になったとき「自分に何かご褒美をやりようと思ったが適当なものなくて」たまたまパソコンを買ったのが始まり。パソコンに標準に入っているお絵描きソフトを使い、マウスを筆にして線を引き、色をつける。「いちばん便利なのは絵筆を洗う手間がないこと」。単純素朴で誰にでも描けそうで描けない、イメージの遊び場だ。

絵を描く原点にシンガポールで敗戦を迎えた戦争体験と、その後の捕虜生活がある。「軍隊は人の心まで統制する。意思とは関係なく動かされて殺される。生き残ったのは運が良かっただけです。最近の世の中を見ていると腹が立つことばかり。絵にメッセージを盛り込むのもひとつの行き方だけど、絵を見て平和で優しい気持ちになってもらうことができればいいなと思ってね」。



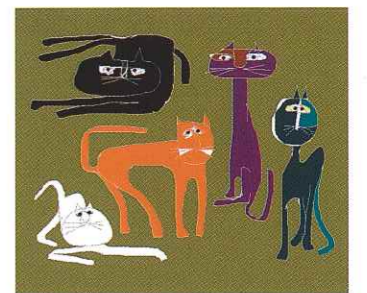
「やさしさに泣けてくる」



「顔シリーズ3」



「動物園へ連れてって」



「姿じゃない存在感と思う」

立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩てはこ
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩てはこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武藤ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組<じょうらくがじょう>

スカパーフェクトTV 216ch
マイ・テレビ 11ch

放送時間については番組表をご確認ください。

立川に育てられて七十一一年

真如苑
柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

FROM CHUBU

フロム 中武

■営業時間 am10:00~pm 8:00

〒190-0012 立川市曙町2-11-2
Tel. 042-524-7111 (代表)

大廣社は今、「知的集約」型企業を実践しています。



伝達を使命とする情報産業の一翼を担う大廣社は、新しい時代の新しい表現を責任持って拓くために、クリエイティブから最終製品にいたるまで一貫体制を構築しています。

先進のシステムと最新技術との融合

株式会社 大廣社
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13
tel. 042-527-1911 fax 042-527-1949
E-mail info@daiokusya.jp
http://www.daiokusya.jp/index.html

えくてびあん流

9月16日、アムでFAFA 5周年記念ライブ

WSに参加してステージで一緒にゴスペルを!

昨年4月号の「えくてびあん」対談でご登場いただいたNanaさんが代表の立川のゴスペル・グループ「FAFA GOSPEL HOUSE」の5周年記念コンサートが9月16日、立川市女性総合センター「アム」ホールで開かれる。9月8日の練習に参加すれば、まったくの初心者でも当日一緒にステージに立てるというワークショップもある特別企画。

18歳で横田基地の黒人教会聖歌隊で歌い、ゴスペル歌手・講師として活躍するNanaさんを中心に2001年結成されたファファ。これまで首都圏を中心に数々のイベントやライブで活動してきた。現在メンバーは、約40人。今回は5周年を記念した5年ぶりの自主コンサートになる。

記念コンサートは9月16日(日)午後6時30分からアム1Fホールで。これに先立ち9月8日(土)午後7時から9時まで立川市中央公民館1F講堂で「天使にラブソングを」



(c) Tatsumi Kobayashi

シリーズの人気曲を練習するワークショップがあり、これに参加すると当日FAFAと一緒にステージで歌うことができる。ワークショップ参加費は16日のコンサート代を含めて1500円。コンサートのみの料金は前売500円(当日800円)。申込・問合せはメール fafa_gospel@yahoo.co.jp、または電話090-3913-5781(Nana)まで。ホームページ http://www.fafagospelhouse.com/で詳細確認、申込みもできる。

この人この店 ⑤

Cafe Cima Coppi

北村 未和さん

市民会館<アミューたちかわ>の北側、黄色い三角屋根が目印です。Cima Coppi(チマコッピ)と聞いてピンとくるようなら、あなたも自転車通。店内にはツール・ド・フランスの写真。期間限定メニューがおもしろい。5月にはジロ・デ・イタリアのテーマカラー ピンクにちなんだピザとデザート。7月にはツール・ド・フランスの黄色、9月にはブルータ・ア・エスパーニャのオレンジ色をイメージしたメニューに変わります。午後のお茶にパイはいかが? 皮のサクサク感は焼きたてならでは。スコーンも熱々。外はカリッとしていて割れば湯気と一緒にあまい香りが漂います。クロテッドクリームではなく特製オリジナルクリームをつけて……。う〜ん、何回食べても食べ飽きない。「ゆっくり時間を楽しんでもらいたい」と北村さん。なかなか他では飲めない紅茶や、まるで化学の実験みたいに見える色変わりを見せてくれるハーブティー。時間の経つのを忘れそうです。



〒190-0022
立川市錦町1-20-15
TEL 042-533-5266
営業時間 11:30~20:00
(日曜日は17:00まで)
定休日 水曜日



写真撮影: 五来孝平

立川の
お作法

中野 豪清

第2回

歩む、 行き逢う



挿画: 綾 幸子

わが家から通りに出て錦町一丁目西の交差点を渡ると、歩道が30cmほどの灰色と黒の市松模様のようになっている。その場所に来ると知らないうちに灰色と黒の合わせ目の線を挟んで歩いている。靴のつま先と踵が線に平行になるようにするのだ。

一般に、つま先が外を向いて歩くと靴の踵の外側が減り、肩が揺れる。つま先が外を向けば向くほどそれは激しくなる。いわゆる蟹股歩き。人を威圧するようで見ただ目にも感じが良いとはいえない。

一本の線の上を踏んで歩きなさいと言われるが、一線上、あるいは線を踏み越えながら歩くと、腰がクリ、クリと振れて靴のつま先の内側が減る。いわゆる内股歩き。ファッション・ショーのモデルさんの歩き方を思い出してもらえばいい。腰が大きく振れ、派手で視線を集める歩き方だが、街なかではいかがか。

一本の線を挟んで両足が平行にまっすぐになるように歩けば、肩も揺れず、腰も振れない。私自身、歩道の市松模様を目安にしたりしてそのような歩き方に努めるが、この歳になっても昔身についた、つま先が外を向いて歩く癖はなかなか抜けない。

道の前方から三人連れが楽しそうに話をしながら歩いて来る。立ち止まって通り過ぎるのを待つが、道いっばいに広がって身置き場所に困る。歩道の幅は大体が一間(約1.8m)。広いところで一間半。一面に街路樹が植えられているから案内狭い。私も家内と話しながら歩道を歩くことがあるが、前から人が来れば話をやめ、歩を緩めて私が

後ろに入って一列になる。人が通りやすいように気を配るのが礼儀だ。

昔は「三歩さがって師の影を踏まず」とか、女性は夫の前を歩いてはいけないと言われたものだが、私は誰であれ連れの人を前にする。通常は内側にいる人が歩を緩めて後に入るようにするといふ。次々と人が来るようなら話は中止する。

上司など目上の人に出会ったら端に避けて挨拶する。行先のお辞儀をして、相手が通り過ぎてから歩き出す。友人、知人の時は草礼のお辞儀でよい。話をするなら通行のじゃまにならないよう同じ側に寄る。靴や荷物を右手に持っている時は、左手に持ち替え、右手で行礼、草礼のお辞儀をする。右手が礼をする手と知っておきたい。

突然、後ろで大きな声があるので、呼び止められたのかと思って振り返ると、携帯電話。電話は近代の英器だが、考えようによっては相手の都合に構わず電話口まで呼び出す無作法がまわる道具。どこにでも持ち運べ、いつでも電話を掛け、受けられる携帯電話はなおさら相手だけでなく周囲に対する心配りが求められる。

歩きながらや人ごみの中、乗物の中での電話はしない。急用の場合でも、迷惑にならないよう場所を選ばべきだ。忙しい世の中であっても、自ら心に「ゆとり」を持ち、相手や周囲を思いやれる人がいる。そういう温かい街でありたい。

表紙の人

伊藤満雄さん(富士見町)

長らく富士見町で整骨院をされている。そこで、ご自宅は一番町だが表記の町名は富士見町にさせていただいた。もうひとつの顔は立川柔道連盟会長。柔道七段。柴崎町・諏訪神社境内の錬成館道場を中心に、後進の指導に当たって久しい。撮影はお許しをいただいて、その錬成館のある諏訪神社本殿前でお願いした。道着に六段以上に許される紅白のんだら帯を締め姿で、社殿を背にすくっと立っていただくと、武道の神の鎮座ましますお諏訪様に、実に似つかわしく映えるのだ。

諏訪神社で 写真: 細江英公

かたこと

まずお詫びです。8月号「ここがタチカワ! ここも立川!」で立川競輪場の場所がく高松町>とありました(がく高松町)の間違いでした。▼長雨に台風、そして中越沖の震災……多事多難な夏でした。そういえば近年は変動の年と言われます。古くから言い伝えられるわけがあるのでしょうか。▼9月を迎えればそろそろ秋風に、今年も残り少なくなったような気がしてきます。9月17日は「敬老の日」▼VIEWにご登場いただいた画家の大谷克己さんは御歳85。年輪を重ねてもいつも新しいことに挑戦し、それを楽しむ。芸術家に限らず、若々しさの秘密かもしれません。▼対談は、自動販売機で飲み物を買うと福祉や環境対策、国際貢献などに寄付ができるという「ゆび募金」を行っている亀岡猛さん。▼数字を追いかけるビジネスの世界から、人の善意を生かす新しい仕組みを作り上げる。やはりこれも、誰もしなかった新しいものに挑戦することが情熱の源のひとつになっているのだと思います。▼えくてびあんも「ここがタチカワ! ここも立川!」は今回ディーブなおたくの世界、「輝きのメルヘン」は友安ご夫妻のジュエリーをちょっとドラマティックに▼新分野に挑戦するスタッフの意欲、伝わりますでしょうか。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 五来孝平

えくてびあん ⑤ 9月号

第26巻 通巻274号
平成19年9月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

サイ キリン 空にペガサス

ロシア民話の魔法の馬は、正直者を見逃さない。奢らず、怠けず、不服を言わず、懸命に生きる君たちに、天が授けた美をあげよう。個性輝く美をあげよう。

輝きのメルヘン

ともやす
ジュエリーコレクションから

2

動物

写真：五来孝平

こんな動物を創ろうという真智恵さんの発想に、昭さんの指は形を創りだす。その動物の持つ最も美しい線。余分なものをすべて削った究極のフォルム。キリンの美を生み出すのに8年かかった。

いぬ うさぎ いのしし そしてねこ

やわらかいうぶ毛、おぼつかない足取り。むじゃきなしぐさに思わず抱き上げたくなる。4000年も昔、エジプトの民に崇められたねこには、幼さにも気品が見える。

